



今日の例会 [2418th] 2017.12.28

クラブ総会

前回の例会 [2417th] 2017.12.21

ゲストスピーチ

山形おきたま農業協同組合 たかはた支店
代表支店長 **安達一良氏**

- ・点鐘12時30分 山村 義美 会長
- ・ロータリーソング それでこそロータリー
- ・ソングリーダー 四つのテスト 木村 健彦 君
- ・S A A 井田 裕子 君

会長あいさつ

山村 義美 会長

みなさんこんにちは、先週はクリスマスパーティーへ沢山の方からご出席を頂きありがとうございました。また親睦委員会の皆様には、早くから準備を頂き大変お世話になりました。新年会もよろしくお願いいたします。

本日のゲストスピーカーをご紹介します。JA山形おきたま 高畠支店 代表支店長 安達一良様でいらっしゃいます。後程ご講話をよろしくお願いいたします。

本日の山形新聞に文部科学大臣表彰を受けられた我がクラブの長谷川平内君の記事が載っていました。長年にわたり教育行政を指導していただき、高畠中学校開校に向けてご尽力頂いたと書かれていました。本当におめでとうございました。

さぞかし祝賀会は盛り上がったと思います。これからも、お身体に気を付けていただき、社会奉仕・ロータリークラブ活動へのご協力をお願い致します。

スマイルBOX

- ・会員誕生祝い 高橋 尚男 君 (11月)
- ・地方行政功労者文部科学大臣賞の祝賀会をしていただきました。
長谷川平内 君
- ・ゲストスピーカーの安達一良氏とは同級生です。
青木 道春 君
- ・印刷ミスをやってしまいました。
桑島 周士 君
- ・ゲストスピーカーの安達一良氏は一つ下で、一緒に野球をした仲です。
山村 義美 君
- ・Xmasパーティーにご参加ありがとうございます。
高梨 恭行 君
- ・義父の葬儀に多くの方にご参列をいただき、ありがとうございました。
加藤由香里 君

《委員会報告》

奉仕PJ委員会 青木 道春 委員長



- ・歳末たすけあい運動募金へ会長と社会福祉協議会に伺い募金を行って参りました。

ゲストスピーチ

山形おきたま農業協同組合 たかはた支店
代表支店長 **安達一良氏**



平成30年からの米政策見直しの内容と対応

政府は「農林水産業・地域の活力創造プラン」において、50年間弱続いた米の生産調整の見直しを決定した。については、地域農業の振興と農家所得の確保のため以下の通り取り組みたい。

1、米生産調整の歴史

戦後の食料不足の時代に、政府が全量買上げる「食糧管理制度」により日本の主食である米生産が奨励される。米の生産量は、昭和30年代末まで不足基調で推移したが、昭和42年には1,400万トと消費量に対し200万トのギャップが生じ国の財政負担の継続が困難となり、昭和46年から米の生産量を抑制する「減反政策」が実施された。

2、米の需給動向

米の生産量は、昭和42年の1,400万トを最高に生産量と需要量は右肩下がりで推移し平成28年には750万トまで減少した。主な要因は、①減反政策の実施 ②高齢化社会と人口減少 ③食生活の洋風化であり、1人あたりの年間消費量も昭和37年の118kgから平成28年の55kgと54年間で半減した。

3、米政策見直しの内容

平成29年までは、国が全国の需要量を踏まえ翌年の生産量を都道府県別に配分していたが、平成30年からは国がきめ細かい需要・価格情報、販売進捗・在庫情報を提供し、生産者や団体が需要に応じた米生産を行う内容であり、水田フル活用に向けた支援(水田活用交付金:高畠町341百

万円)は継続されるが、米の直接支払交付金は廃止となる。尚、平成31年より「収入保険制度」が創設される。

4、米政策見直しの課題

大きくは三つのポイントがあり、一つ目は、生産者や団体が中心となる体制で需要に応じた生産ができるか?仮に、過剰作付けが生じれば米価が大幅に下落し主業農家ほど大きな打撃を受ける。二つ目は、家畜用の餌となる「飼料用米」の定着を図れるか?三つ目は、平成30年から廃止される「米の直接支払交付金(高畠町:117百万円)」の収入減をどうカバーするかとなる。

5、米政策見直しへの対応

直近2周年は、全国的に生産調整が整ったため米価が上昇傾向にあるが、平成26年米価は大量の余剰米の発生により過去に経験のない暴落に至った。それらを総合的に判断し、農家(米生産者)の所得確保と営農の継続を目的に、高畠町水田農業再生協議会(農業者・町・農業委員会・米集荷業者)と連携し需要に見合った米生産を進めていく。

米を作付けしない水田で排水が確保できる圃場では、今まで以上的大豆・そば・枝豆等の本作化を図るとともに、排水が悪く土が湿潤な圃場では「飼料用米」「主食用以外の用途(清酒・せんべい等)の加工用米」を生産し稲作機械の汎用化によるコスト低減を図る。また、消費者の理解を得ながら国に対し水田が持つ多面的機能の価値の評価を求めていく。

《出席報告》

会員数 48名 出席者数 21名 出席率 43.75 %
前回修正 出席者数 48名 出席率 100.0 %

次回の例会 [2419th] 2018.1.11

